

ニューズレター

Rejoice

No.4

〔特集〕病院清掃に求めること ～4病院のICN 座談会～

神奈川県済生会は、済生会の創立とともに発足し、済生会創立の趣旨を受け継いで済生の実を挙げ、医療・福祉の部門を通じて、神奈川県における社会福祉の増進に取り組んでおられます。地域の基幹となる公的医療機関としての病院を運営し、地域医療の推進や生活困窮者に対する無料、または低額で診療を行う社会福祉事業をはじめとして、常に信頼される医療を提供していらっしゃいます。今回は、そんな神奈川県済生会の病院の中から、普段から連絡を取り合い助け合う、東神奈川リハビリテーション病院、湘南平塚病院、神奈川県病院、若草病院の感染管理認定看護師のみなさまにお集まりいただき、療養環境の清掃に求めることについて語っていただきました。

社会福祉法人 恩賜財団神奈川県済生会



東神奈川リハビリテーション病院／
湘南平塚病院／
神奈川県病院／
若草病院
<https://skanagawa-saiseikai.jp>
写真は、東神奈川リハビリテーション病院。



東神奈川リハビリテーション病院
感染管理認定看護師
鈴木洋子さん



神奈川県病院
感染管理認定看護師
大和田理恵さん



湘南平塚病院
感染管理認定看護師
根津美保さん



若草病院
感染管理認定看護師
渡部恵美子さん

療養環境の清掃について4つの病院における現状

— 最近、環境中に存在する微生物が多剤耐性を獲得し、それが病院内で伝播してアウトブレイクを起こす事例が散発しています。環境からの感染も考慮し、清潔で安全な療養環境を維持するためにも、日常清掃の重要性が増していると思います。今日は、この「療養環境の清掃」に焦点を絞って、それぞれの施設での事例なども織り込みながら意見交換をお願いいたします。

渡部：若草病院は、長期入院される患者さんが多いこともあり狭い病室内に物品が多く、清掃や環境整備がしづらいのが現状です。

— 比較的古いタイプのレイアウトの場合、病室もあまり広くないことや十分な収納が確保できていないケースもあり、工夫が必要ですね。

鈴木：東神奈川リハビリテーション病院は、2018年2月に新規開院しました。ここでは、スマートリハビリテーション^{*}を導入するなど新しい取り組みをしています。清掃に関しては神奈川県病院で実績があり信頼の置ける業者に委託しています。

※スマートリハ SmartRehab: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構によるプロジェクトで、ニューロリハビリテーションの理論に基づいて開発された革新的なリハ機器・評価機器が高度にシステム化された、近未来のリハビリテーション。
(<http://higashikanagawa.saiseikai.or.jp/> より)

— どのような点に信頼が置けるのでしょうか。

鈴木：それまでの神奈川県病院の清掃委託業者はビルメンテナンスのプロではあったのですが、病院清掃の専門性はありませんでした。例えば手指衛生や感染症についても理解や知識が乏しく、

ゼロベースで何度も教えなければなりませんでした。現在の清掃委託業者はその点、もともと知識や技術を習得したスタッフが担当していますので、とても安心感があります。

— それはとても大事なことです。安心感ですね。

鈴木：そうですね。病院側がこうしてほしいと思っていることを理解してすぐにやってくれるのはありがたいことです。

病院清掃のプロに任せられる という大きな安心感を獲得

— 大和田さんのところはいかがですか。

大和田：神奈川県病院もリハビリテーションを持つ病院です。清掃委託業者は昨年度に変更しました。かなり院内が綺麗になりました。しかし、それでもまだまだ課題があります。

— それは、どのような点ですか。

大和田：現在、改善に取り組んでいる最中なのですが、病院スタッフによる患者さんの療養環境の整備は充分ではありません。

例えば床に私物を置く患者さんも少なくなく、そのため床の清掃が充分に行えないこともあります。

そうした課題についても、清掃委託業者の責任者を加えて院内ラウンドやカンファレンスを行い、情報共有をして、病棟スタッフとも協力しながら少しずつ前に進んでいます。

— 情報共有やコミュニケーション、そして病院スタッフの理解と協力は不可欠ですね。

鈴木:環境整備はとても大切な私たちの仕事のひとつです。以前は患者さんの私物や看護ケア物品、体位交換用枕やレンタルタオル類など、ベッドの周囲や床に物が溢れていて清掃しにくい状況でした。

当院では、開院後まず、吸引チューブなどを廃棄する感染性廃棄物のごみ箱を患者さんのベッドサイドから取り除きました。

それを取り除いたことによって、床に置かれていた荷物がなくなり、患者さんは移乗できるスペースを広く確保することができました。

はじめは、汚物室までごみを捨てに行くことに難色を示していた看護師たちでしたが、業務に慣れてくると、「ごみ箱は邪魔だったのよね」「臭いがなくなった」などの声が聞かれるようになりました。

もちろん、感染性廃棄物のごみ箱をなくしたことによって、環境を汚染する機会が増えることはよくありません。環境汚染しないような、吸引時の手順を指導する必要があります。

大切なのはその病院ならではの工夫とコミュニケーション

— 湘南平塚病院にはトイレが多いと聞いております。なぜそんなにトイレが多いのですか。

根津:当院も2017年7月に新病院に移転しました。旧病院の頃は、食後のたびにトイレに列ができていたのです。それは、高齢者やリハビリテーションの患者さんがほとんどであるため、排泄や準備に時間がかかるのですが、それに対してトイレの数が少なかったことが原因だったのです。それを改善するため、新病院ではトイレを増やしたのです。

— 清掃で工夫している点はいかがですか。

根津:当院では、感染症の種類によって、色分けしたステッカーを病室前に貼っています。その色によって例えば接触感染対策が必要な患者さんだということが、清掃スタッフにもわかるようにして

います。彼らは開院前から実技を含めたシミュレーション教育や感染症対策についての教育を受けてきていますので、いちいち指導しなくてもきちんとしてくれ、安心感がありますね。

— 清掃スタッフの教育に基づく技術に裏付けられた安心感は大事ですね。それは患者さんの安心感にも繋がるのかもしれないね。これまで4病院で取り組んだ一例を教えてください。

鈴木:ここにいるみなさんの協力を得ながら導入したのが、現場の写真入りのラウンド報告書です。



東神奈川リハビリテーション病院の環境ラウンド報告書

— 環境ラウンドの報告書は、現場にフィードバックして改善するためのものですね。これはわかりやすくていいですね。

鈴木:介入前とその後の様子を写真を用いて経時的に示してフィードバックすると、スタッフのモチベーションも向上し、日々前向きな改善活動に努めるようになります。

— それはとても勇気づけられる活動ですね。最後にひとこといかがですか。

鈴木:病院清掃は清掃委託業者任せではいけません。私たち病院職員も一緒になって取り組んでいかなければなりません。

どちらの立場も、患者さんの療養環境を清潔で快適に保つことが求められます。委託業者のみなさんも、わからないことや困ったことなどがあったら、私たちICNに気軽に相談してください。

また、よいアイデアなどがあつたらぜひ教えてほしいです。

私たちは、神奈川県病院、若草病院、湘南平塚病院、東神奈川リハビリテーション病院で今後も連携しながら、感染管理を推進していきたいと思っています。

— それぞれの施設が創意工夫をしながら問題解決に臨んでいらっしゃるがよくわかりました。そのためには、教育を受けた清掃委託業者スタッフと病院スタッフとの情報共有や連携が基盤になるのだということもわかりました。こうした感染管理認定看護師さんの横の連携はとても有意義ですね。短い時間ではありましたが、読者の方々にも大変参考になるお話が伺えたと思います。どうもありがとうございました。

トイレ清掃方法研修の様子



東神奈川リハビリテーション病院では、知識や技術について実技を交えて、年1回清掃についての作業従事者向けの研修会を開催されています。

機 動 班

キャラバン隊活動の紹介



当社は機動班を設け病院清掃の通常作業（定期清掃）サポートの他に、消毒清掃等の専門的な作業を請け負っております。

アウトブレイク（院内感染）時の特別消毒清掃や病院移転に伴う雑務（残置物回収等）。

緊急時には複数現場からメンバーを招聘し即席のチームを作り迅速に対応しております。

病院内外においては、床の剥離、施工後の仕上げワックス、エアコン清掃や寮の退去清掃、マンション共用部清掃を行っております。

現在では看護師寮の清掃も多く引き受けております。

清掃事業部 早川冬悟

エアコン清掃前後



天井エアコン清掃



特別消毒清掃



仕上げワックス



編集後記 From Editor

今回、神奈川県済生会4病院合同座談会としてお話を伺わせて頂きました。

まず印象的だったのは、私達清掃委託業者に寄り添い、我々ができる現実的な清掃方法や改善点を4方とも考えてくださっているということです。

実際に私自身、神奈川県病院と東神奈川リハビリテーション病院の2病院の清掃所長として担当させて頂いておりますが、清掃スタッフが病院内での作業や対応に困っている時には率先して相談に乗って頂き、作業環境改善に全面的に協力して頂いております。

また、定期的に行われる院内での感染管理研修でも、トイレ清掃の実技講習、身近な感染症やその対策方法など、実際に業務で大切なポイントを清掃スタッフ目線で分かり易く教えて頂き、一同とても勉強になっております。

4病院のICNの方々の清掃業者への期待を受け止め、良いところは伸ばし、改善点は修正し、病院職員の皆さんと一緒に療養環境をより良いものになりたいと考えております。

今回はこのような貴重な意見を聞かせて頂きありがとうございました。

清掃事業部 宮川紀一

全ては、お客様へ快適な環境を届けるために。

for the Client for the Society for the Ourselves

リジョイスカンパニーが
医療機関の様々な業務をサポートします。